

単元「日本の歴史」を指導して

足利市立山前小学校 久保田和男

使用教科書

教育出版社 小学社会 6年上 新訂版

小単元別時間配当

小 単 元	予定時数	実施時数	小 単 元	予定時数	実施時数
告	1	1	明 治 維 新	7	6
本の国が生まれるまで	4	4	明 治 憲 法	4	3
隆 寺	3	4	産業の発達と大陸への進出	4	5
良 の 大 仏	3	4	明治の世の中と文化	5	3
安京と日本文化	4	6	世 界 と 日 本	8	8
氏 と 平 家	4	9	新 し い 日 本	5	5
新しい村 新しい町	3	6	ま と め	1	1
国の世の中	3	6	テ ス ト	2	3
リスト教と鎖国	4	4			
建政治と人々の暮らし	7	6	時 間 合 計	72	84

1学期における社会科の授業実施時間総計53時間、従っていずれにしても、1学期でこの単元を完了できる道理はなく、小単元「封建政治と人々の暮らし」から、小単元「明治憲法」までを夏休みの補習授業の時間（7日間）に、更に残りの部分を2学期に持越して、9月いっぱいをもって完結した。学習の性質上、ところによっては冗長に流れすぎたこともあつたろうが、日本歴史、世界地誌、マスコミ、貿易、政治と6年の社会科において扱われる内容が多過ぎるのではないかと思われる。この点、指導要領の改訂にあたって貿易に関する学習が5年に移されたのは当を得ていると思

資 料

- 中 村 孝 也 新日本歴史文庫 全12巻
 山 川 出 版 高校社会 日本史
 森 末 義 彰 日本史の研究
 坂 本 太 郎 日本史概説 上下

大島 延次郎 日本交通史概説

国際写真情報 画報近代百年史

歴史年表

掛地図

日本歴史掛図

映画「大昔の生活」

テレビ NHK くらしの歴史

ラジオ NHK 日本の昔

4 実施に際しての留意点と反省

私は自分達がかって受けた、超国家的、神秘的な歴史教育をさげ、出来るだけ科学的な歴史教育を行いたいと思った。しかし悪い意味での客観主義に陥ることは危険であるので、なんらかの形で、その時代を代表する人物にも活躍してもらおうと考えた。また授業終了後の児童との会話、あるいは児童の作文によって彼等の反響を知る方法が、わりに効果的であることを知り、次の学習へのきっかけとしたりした。

縄文式土器文化、弥生式土器文化については、すでに5年において「道具から機械へ」として学んでいたが、映画「大昔の生活」を使用したことは児童の印象を特に深くしたようだ。ある生徒はつそく土器の破片ひろいに出かけ、縄文式土器の破片で教室をかざった。

「大昔の人は、よく誰も教えてくれないのに、武器などを考えついたなあと思う。もし私がおの代に生まれていたらと思うとゆかいだ。……」

岡田 富美子

魏志倭人伝に登場する邪馬台国の謎については国立博物館にある金印の印象について話して聞かせ、更にそれにまつわる逸話を聞かせ、考古学という科学の持つ面白さについて考えさせた。

大和朝廷の成立と、その強大さについて仁徳天皇陵を扱う際に、かまどの煙を見て減税を断行した天皇と、墳墓築造の犠牲となった民衆とを対比させて考えさせた。なお古墳の構造を説明するのにテレビの「くらしの歴史」が視覚教材として役立った。

大化の改新により、氏族の私的土地所有が官僚的な国家に吸収され、天皇を中心とする古代天皇国家が成立するが、それが政治的な改革であり、社会経済上の変革でなかった点を強調したかった。このような点は中学における学習にまわして、「多くの氏族達の協力があつたので改新は成功したが、ただ氏族達の世話になつたため、後に朝廷も貴族(氏族)のわがままをおさえることが出来ず、さかしくの新しい政治のやり方も、あまり永続しなかつた。」と説明する程度にとどめた。

律令国家の隆盛と平城京の造営、聖武帝の大仏鑄造については、そのかけにある庶民の苦しみに限らせるために、万葉集の「あおによし奈良の都は……」の歌と、山上憶良の貧窮問答歌を対照と

幕府制度の苛酷さを知らせ、駅制の整備等一連の政策がすべて権力者のためにのみ考慮され、僧侶の活躍を待たねばならなかった政治の負困さについて考えさせた。

鎌倉の大仏ができたころの時代は、少し政治のとりかたがひどすぎる。私の家は父ちやんがいつか、武士が祖先らしい。だから、もし私が貴族のむすめなら、こんな政治はやめさせたのと思

岡田 富美子

幕府制度の崩壊の中から、武士が発生する過程の説明には時に時間をかりた。やゝもすると経済史の説明は歴史学習を児童から縁遠いものにしやすいので、このあたりから歴史上の人物に大いに活躍してもらった。従って小単元「源氏と平家」は特に9時間をこれにあてた。

よくは頼朝が梶原景季にだまされて、義経をうつことにした時、義経はよく兄に手むかわなかつと思う。それにくらべて梶原景季をころしたくなる。兄弟仲よくやれば源氏はほろびなかつただろそれが一ばんくやしい。」

江口 哲雄

昔も今も悲劇の英雄である。

修学旅行において、鎌倉の地を実際に見て来たことは、この単元の学習をより身近に児童に感じさせると思う。北条氏の政権欲のために非業の死をとげた源実朝や、時代に逆行せるが故に、その志もあきらまなかった護良親王を子供達はこんなふうに見ている。

鎌倉時代の人は、人を殺すのをなんとも思っていないかつたようです。いい人でもじやまになるといってしまいます。そうゆう時にはくやしくなります。」

高瀬 知子

単元「新しい村新しい町」においては、御恩と奉公という関係において御家人と結ばれた鎌倉の守護大名の連合政権の上に不安定な地位を占める室町の将軍との相違を強調した。新しい郷土の確立と共に、この郷村の中から発生した広汎な農民運動「土一揆」の性格については、農民の立場から見れば土一揆であり、名主層の面から見れば下剋上であるという矛盾、即ち郷村が土一揆といふ封建闘争の母胎であると同時に、封建支配の根底を成す下剋上の原動力であつたという矛盾をどの程度まで理解させたら良いか考えた結果、「一揆をひきいて乱暴な守護大名と戦つた名主達の多くが戦国大名の家臣達となつて、検地や刀狩という手段によつて、もとの仲間の農民達をおさめられるようになった。」という程度に説明した。

子供放送「日本の昔」においても、村人の1人の台辞の中でこのことによれさせていたが、多くの児童がこれに注目しなかつたのと同様、授業にさいしても問題はかなり難解であつて、一部の優秀児童は江戸時代の百姓一揆とこれを混合したのではないかと思う。

足利幕府がたおれると名主や地侍は戦国大名の家来になり、農民の一揆を恐れて刀狩をして一揆を抑えられないようにし、農民を利用して自分の出世ばかり考え、農民はどうしても良いというように馬鹿に扱っていた。名主達はそんな考えを持たないで正しい道を進み、人々に尊敬されるようになり、平和になるようにつくせばよかつたと残念に思う。」

清水 宏 三千

小单元「戦国の世の中」は冒険を好むこの年令の児童達に最も受けた单元だった。英雄崇拜主義陥らない程度に武将達の伝記を話してやった。しかしこのような戦国大名のあり方に対しても児童はわりに批判的だった。

「今の世の中に生まれて来た人は幸せだと思った。昔の人は大名がなんでも自分のものになりたいと思って、戦争ばかりしているので、たべる物もろくにたべられずにくらしていた。天皇のうばいあで戦争になったりした。旅行するのも歩きで行かなければならない。お百姓さん達はやつとのことだがやした畑もとられてしまいかわいそうだ。」

渡 辺 恭 子

キリスト教の伝来とその禁止については、簡単に世界史的な背景にもふれ、カソリック・プロテスタント両派の対立とカソリック宣教師の海外における活躍との関係に着眼させた。キリシタンの迫害と島原の乱に関連して、長谷川路可画伯がローマ郊外のカソリック寺院の壁画にえがいた日本人殉教徒の話などを挿話として扱った。

「時代が進むにつれて外国からキリスト教をひろめにくた。けれども武士はキリスト教を日本にしないようにした。それでキリスト教を信じる者は踏み絵をしたり、十字の木にはりつけて殺したりした。私はそんなひどいことをしなくてもいいと思つた。私たちは今の時代に生まれてよかつたと思う。」

土 屋 育 子

徳川幕府がよく三百年の命脈を保つたことについては織豊政権の組織と対比させ、その財力の強大さ、強力な常備軍（旗本）、大名領国の配置政策、参勤交代政策、きびしい身分制度等が重要な意味を持つてゐることを考えさせた。子供達のよく知つてゐる忠臣蔵の話も幕府政策の一端を物語るものであることに気づかせた。

「さむらいたちはみんないぼつていて、農民たちにねんぐ米をよこせというのだつた。封建制度の世の中では身分の差別がきびしく決められているためだつた。このように身分の高い人や身分の低い人などと差別がなく、今のようにみんな平等であるのがよいと思ひます。それでないと農民や町人たちがかわいそうだと思ひます。でも私も農民の一族にすぎません。」

清 水 広 子

幕政のゆるみと封建制度の崩壊、貨幣経済の侵入と度重なる凶作によつて生じた飢饉、それによつて発生する百姓一揆を扱うについては、何故一地方の不作、凶作を現代のように助け合いによつて、飢饉から逃れさせることが出来なかつたのか考えさせた。

「凶作でお米がとれなくても、年貢はいつもの年と同じくおさめなければなりません。そのため百姓の人が何百人とうえ死にしました。自分がお米を作つて自分でたべられないなどこんなことが

ったのです。

鶴 貝 和 子

工商とその身分を武士の次に置かれたとはいえ、それは年貢米を出させるための手段であつて、
百姓は大切にされなかつたということの子供達は理解したようである。

史学習においてはとかく取扱時数の不足から、近代史を断足で通りすぎる傾向が強いが、現代の
と直接のつながりを持つ近代史を軽く扱うことは歴史教育のかなめを欠くと考えたので、明治維
新からサンフランシスコ講和条約締結に至るまでの流れを、一応のすじを通したつもりである。

しかしこの時期は短期間に重要な出来事が錯綜し、それが国際的な範囲に拡大されるので、世界史
知識の全くないこの年令の児童にとって近代史の学習は難解で取りつきにくいものという感を与
えることはいなめない。

の出来事を年代の順にならべてごらん下さい。

() 太平洋戦争 () 満州事変 () 日清戦争 () 日華事変 () 日露戦争 25点

う問題に対する得点分布が

- 5点 6パーセント
- 5点 19パーセント
- 0点 21パーセント
- 5点 28パーセント
- 0点 26パーセント

であるのに対し

んけいあるものの番号を()の中に入れなさい。

- 1 乃木大将 () 国民政府首席
- 2 ルーズベルト () ナチス
- 3 ヒットラー () ファッシスト
- 4 ムツソリーニ () 旅順のたたかい
- 5 蒋介石 () ニューデール 25点

う問題の得点分布が

- 5点 26パーセント
- 5点 19パーセント
- 0点 28パーセント 受験者47名
- 5点 21パーセント
- 0点 6パーセント

ることから察しても、個々の事件の内容はわりに理解されやすいが、その前後のむすびつきがあ

いまいになつてることがうかがわれる。むしろ比較的くわしく歴史的事項を断片的に暗記させるよりも、小学校程度の歴史教育として、ごく大ざっぱではあるがそこに太い1本のすじを通すことがいかに困難なものであるかをつくづくと考えさせられた。

しかし、国際舞台への進出政策の手段として政府の手により誕生させられ、以後その保護下による成長を遂げた我国の資本主義が、自らの宿命におしつぶされて侵略戦争への道をたどるに至る過程だけは、おぼろげながら理解されたのではないかと思う。

「日本はもつと早く、外国となかよくすれば文化ももつと進んでいただろうと思つた。それから本は不景氣の時戦争をえらんだが、もつとほかに不景氣を切りぬける方法がなかつたのだらうか。」

土 屋 育 子

子供達は映画や小説を通じて戦争の華やかな面を知っている。しかしこの子供達は実際の戦争に直面していない。その意味で、戦争の悲惨さをありのままに示す写真資料をこの時期の学習には多用した。戦争というものの姿を別の角度から見させる手段として、最近のベストセラーズ「人間の件」も、その一部をくだいて話してやり1つの資料とした。

「日華事變の時、日本人が中国人をどれいにして、働かないなら殺してもいいというようなことほんとうにあつたなどとは信じられません。きつとそのころの人の苦しみはどんなだつたでしょう。せつかく人々の血をあせでりつぱになつた國々をまた、血でそめるようなことがあつたらほんとうかなしいことです。」

権 田 静 江

単元「日本の歴史」の指導にあたり、私は児童の発達段階に対してやゝ高度なものを要求するかもしれない。しかしこれは一種の冒険かもしれないが、やればやつただけの効果は期待されるという見通しを得たことと、今日、我々が慢性化し、無感覚にならんとしている平和の有難さという事について、あらためて考える機会を与えるということだけでもこの単元を学習させた意義は充分だつたと思つている。

日本の歴史を学んで

6ノ2 西 巻 恵 美 子

むかしといつても、ついこないだ、昭和20年8月、広島と長崎に原子ばくだんがおちて、30あまりの人々が、とうとい命をうしなつていつた。このおそろしい年に、私たちは生まれていなくよかつたと思つた。でも、もしかしたら、私も原ばくだんで、生まれかわつてきたのかもしれない。お母さんにせおわれてたすかつた子もいるが、大きくなつてだんだん死んでいく子がまだまだに、いるだらう。戦争で日本はまけてよかつたと思う。なぜならば国民がじゆうになつたからだ。私たちが生まれた時は、さつまいもをたべるのもやつとだつたらうが、今ではほうぼうの学校で給食

る。お母さんたちはそんなにまでして私たちを大きくしてくれた。こんどは私たちが親孝行を
したと思う。

終

講 評

料

社会科における教科書は重要な資料の一つであるとの観点にたつて、図書・掛図・年表・視
聴覚等、広い視野にこれを求めて指導されたことはまことに適切と思う。

への反応

指導の対象である児童が教師の指導に対して、どのようにみ・考え、うけとつたかというこ
とを作文・テスト等により反省し、実践せられたることは、きわめてたしかな社会科指導の方法
の一つであると考えられる。しかしながら、時間不足におち入らないような工夫も必要である
う。

入

小単元別時間配当に予告1時間というのがありますが、その内容がはつきりいたしません
児童の身近かな足利市や郷土などで人々の生産のしかた、衣食住の生活、交通のようすなどが
昔から今にいたるまでの変つてきた点から入つて動機づけをしてはと考えられる。

元系列および社会機能

児童の学習した歴史的な経験をたどると、昔の村(町)と今の村(町)(三年)→交通の昔と
今(四年)→工業の発達と私たち・商業の発達と消費の工夫(五年)の上になつて指導計画を
たて学習を展開することが大切であろう。また社会機能の観点から消費・流通(歴史)生命財
産の保護(歴史)文化・教育(歴史)政治(歴史・道徳)であろうと思われる点も配慮すべき
であろう。

要領の研究

日本の歴史のみ方にはいろいろな角度があろう。しかしながらこゝであつかうのは政治のしか
たと国民生活のうつり変りを見るのが大切である。したがつて指導計画をたてるにあつて
は指導要領を理解することが大切で、単なる英雄的人物、過去の事柄の物知りをつくるような
弊害はいましめなければならない。

態度・技術

社会科学習でねらう理解は、かなりよくなされるのであるが、この単元でいかなる態度・技能
をねらえるか、またねらわねばならないかをみきわめて指導を進めることが肝要であろう。

簡単に感想を述べましたが、丹念に記録をとられ、今後の指導に役立たせようとする意欲に対し
ては、小学校においてははとかくおつくだと考えられている社会科指導を能率化する意味におい
からの敬意を表するとともに、今後の御研究を期待してやみません。

(才二中学校 新井健之)